

仮想マシンサーバ(ESX)の IP アドレス変更手順

対象バージョン: SSC 3.0~3.5u1

概要

管理対象仮想マシンサーバ (ESX) の IP アドレスを変更する場合、SigmaSystemCenter のコンポーネント (SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視、ESMPRO/ServerManager、Rescue VM) に影響があります。また、vCenter Server に仮想マシンサーバを IP アドレスで登録している場合、IP アドレスを変更する前に、いったん vCenter Server から仮想マシンサーバの登録を削除する必要があります。

各コンポーネントへの影響

SigmaSystemCenter の各コンポーネントについて、以下の設定変更が必要です。

◆ SystemProvisioning

- ESX 上の仮想マシン、およびテンプレートは、いったんすべて vCenter Server から削除されます。また、vCenter Server に ESX を再登録した後に、テンプレートをデータストアからインベントリへ再登録する必要があります。
そのため、IP アドレス変更手順のときは、収集が実行されないように定期収集などは、オフに設定してください。
- NAS 環境を利用している場合、ストレージ装置の exports 設定を変更します。
- スタンドアロン環境の ESXi を利用している場合、サブシステムを編集します。

◆ SystemMonitor 性能監視

SystemMonitor 性能監視で IP アドレスを指定して性能データ取得を実施している場合、SystemMonitor 性能監視上の管理対象マシンの IP アドレスの設定を変更する必要があります。

- SystemProvisioning の構成反映機能を利用している場合
SystemProvisioning での作業後の構成反映のタイミングで最新の IP アドレス情報が設定されるため、新たな設定は必要ありません。
- SystemProvisioning の構成反映機能を利用していない場合
以下の手順で、SystemMonitor 性能監視の管理コンソールから手動で IP アドレスの変更を行ってください。
 1. SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
 2. ツリーペインから IP アドレスを変更する仮想マシンサーバを右クリックし、「マシン設定」画面を表示します。
 3. [全般] タブの [IP アドレス] に新しい IP アドレスを設定し、[OK] をクリックします。

関連情報: SystemProvisioning の構成反映については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「2.6. SystemProvisioning の接続設定」を参照してください。

◆ ESMPRO/ServerManager

注: 対象は、VMware ESX 4.0、4.1 となります。

1. ESMPRO/ServerManager に登録されている管理対象マシンの IP アドレスを変更します。
 1. ESMPRO/ServerManager を起動します。
 2. 管理対象マシンの [サーバ設定] - [接続設定] で「接続設定」画面を表示します。
 3. [編集] をクリックし、「編集」画面を表示します。
 4. OS の IP アドレスを変更する場合、共通設定の [OS IP アドレス] に新しい OS の IP アドレスを設定し、[適用] をクリックします。
 5. 接続チェックを開始します。

2. リモートウェイクアップ設定を行っている管理対象マシンのネットワークアドレスが変更となる場合、IP ブロードキャストアドレスを変更します。
 1. ESMPRO/ServerManager を起動します。
 2. 管理対象マシンの [サーバ設定] - [リモートウェイクアップ設定] で「リモートウェイクアップ設定」画面を表示します。
 3. [編集] をクリックし、「編集」画面を表示します。
 4. IP ブロードキャストアドレスを変更し、[適用] をクリックします。

受信アラートフィルタ、送信アラートフィルタの設定を行っている場合は、[Windows GUI] にて以下の設定を行ってください。

注: SigmaSystemCenter 3.4 以降 (ESMPRO/ServerManager Ver.6 以降) の場合、以下のアラートフィルタの設定は不要です。

1. オペレーションウィンドウの受信アラートフィルタ、送信アラートフィルタ (マネージャ間通信機能使用時に有効) で IP アドレスによるフィルタリングを設定している場合は、設定を変更します。
 1. オペレーションウィンドウを起動します。
 2. [ツール] - [アラートフィルタの設定] - [受信アラートフィルタの設定]、または [送信アラートフィルタの設定] からフィルタの設定画面を表示します。
 3. フィルタの条件に IP アドレスを使用している場合は、変更後の IP アドレスに変更します。

◆ Rescue VM

Rescue VM で管理サーバの管理を行っている場合、ESX の IP アドレス変更時は監視を停止し、構成ファイルの編集を行う必要があります。

変更手順

以下に、仮想マシンサーバの IP アドレスの変更手順を記載します。

ESX を SystemProvisioning、および vCenter Server にホスト名で登録している場合、手順 5、7、8、9 は必要ありません。

また、スタンドアロン環境の ESXi の場合は、[vCenter Server での操作] は必要ではありません。

1. [SystemProvisioning での操作]

IP アドレス変更時にネットワーク障害を検出し、ポリシーが動作する可能性があるため、IP アドレスを変更する仮想マシンサーバを選択してメンテナンスモードをオンにします。

2. [SystemProvisioning での操作]

IP アドレス変更中に仮想マシンが、vCenter Server からすべて削除される場合もあるため、定期収集を無効にします。

定期収集とは、SigmaSystemCenter で定期的に連携製品の情報を収集する機能です。定期収集を無効にするには、Web コンソールから [管理] - [環境設定] - [全般] タブから [情報収集を行う] チェックボックスをオフにして、[適用] をクリックします。

本設定を変更した場合は、SigmaSystemCenter のサービスである PVMService の再起動は必要ありません。

3. [Rescue VM での操作]

rescue-vm サービスを停止します。

ESX のアクセス先を IP アドレスで登録している場合は、/etc/rescue_vm/config.json ファイルに記載した ESX の IP アドレスを変更します。

4. [SystemProvisioning での操作]

IP アドレス変更時に稼働しているマシンを再起動するため、仮想マシンサーバ上で起動している仮想マシンをシャットダウンするか、他の仮想マシンサーバに移動します。

5. [vCenter Server での操作]

vCenter Server で IP アドレスを変更する仮想マシンサーバを選択し、[Remove from Inventory] を実行して登録を削除します。この際に仮想マシンサーバに登録されている Full Clone 用のテンプレート名を記録しておいてください。

vCenter Server 5.0 以降の環境では、共有データストア上にあるテンプレートは他の仮想マシンサーバへ自動的に移行されますが、念のため記録することを推奨します。

6. [仮想マシンサーバでの操作]

仮想マシンサーバの IP アドレスを変更します。

- VMware ESX の場合は、以下の手順で変更できます。

サービスコンソール上で以下のコマンドを実行してください。
esxcfg-vswif -i X.X.X.X -n Y.Y.Y.Y vswifZ
※X. X. X. Xは変更後のIPアドレス
※Y. Y. Y. Yはサブネットマスク
※vswifZはサービスコンソールの仮想ネットワークインターフェース名

vswifZは、以下のコマンドを実行することで確認できます。
esxcfg-vswif -l

設定を有効にさせるため、ESX Serverの再起動を行ってください。

- VMware ESXi の場合は、VMware ESXi のコンソール画面から IP アドレスを変更できます。

7. [vCenter Server での操作]

仮想マシンサーバを vCenter Server に再登録します。

8. [vSphere Client での操作]

仮想マシンサーバに、手順 5 で記録しておいたテンプレートが vCenter Server にあるか確認し、存在しない場合は再登録します。

9. [SystemProvisioning での操作]

スタンドアロン環境の ESXi の場合は、サブシステムの編集で仮想マシンサーバの IP アドレスを変更します。

10. [SystemProvisioning での操作]

手順 4 でシャットダウンした仮想マシンを起動します。仮想マシンを移動した場合は、元に戻って仮想マシンサーバに戻します。

11. [Rescue VM での操作]

手順 3 で停止した rescue-vm サービスを起動します。

12. [SystemProvisioning での操作]

仮想マシンサーバが運用グループで稼働している場合は、ホスト設定の [ネットワーク] タブで設定している IP アドレスの設定を変更します。

13. [SystemProvisioning での操作]

仮想マシンサーバのサービスコンソールの IP アドレス変更に伴い、VMkernel の IP アドレスを変更した場合、手順 12 を行ってください。

14. [SystemMonitor 性能監視の管理コンソールでの操作]
「各コンポーネントへの影響」に従い、必要な場合は SystemMonitor 性能監視の管理コンソールから手動で監視対象マシンの IP アドレスの変更を行ってください。

15. [ESMPRO/ServerManager での操作]
「各コンポーネントへの影響」に従い、ESMPRO/ServerManager から手動で管理対象マシンの IP アドレスを変更してください。

16. [SystemProvisioning での操作]
NAS 環境をご利用 (NetApp ストレージ装置を SigmaSystemCenter の管理対象としている) の場合、ストレージ装置の exports 設定を変更し、SigmaSystemCenter Web コンソールからストレージ収集を行ってください。

17. [SystemProvisioning での操作]
手順 2 で定期収集を無効に設定した場合は、有効に戻します。

18. [SystemProvisioning での操作]
仮想マシンサーバのメンテナンスモードをオフに戻します。

作成日: 2017/05/16